

国鉄当局と「本部」革マルの醜悪な一体化 動労千葉破壊のための 革マル分子の送り込み

日刊 動労千葉

82, 7, 4

No. 1086

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（会費）四三二（七）二七〇七

極悪革マル分子「長谷川・海宝の（ワ）付」 千葉局「転勤」発令を弾劾する！

国鉄当局は、動労「本部」革マル分子「長谷川正彦（東京地本・茅ヶ崎支部・35才）を新小岩機関区へ、同じく革マル分子「海宝洋好（東京地本・武蔵小金井支部・33才）を津田沼電車区へと、それぞれ七月一日付で「転勤」発令を強行した。現在、反動鈴木内閣の死活をかけた軍事大国化・改憲攻撃の最大の焦点として、三里塚二期攻撃の切迫化と第二臨調による新マル生一合理化攻撃の本格化にあわせて、国鉄当局と動労「本部」革マル「東京地本」委員長「松崎が、数々のとり引き・密約の上に完全に一体化して計画した動労千葉への新たな組織破壊攻撃のエスカレートである。動労千葉一三〇〇は断じてこのような卑劣な攻撃を許すことはできない。

送りこみ革マル分子は何をやってきたか！

周知の通り、動労「本部」革マル反動分子は、国鉄当局・権力の手厚い保護のもとに、一九七九年八月の三年間にわたって、わが動労千葉の全職場に「オルグ」と称するのべ二万名をこえる大量の押しかけ動員をもって組織破壊の攻撃をくり返えし、四・七津田沼武装襲撃（片岡支部長に頭がい骨々折の瀕死の重傷を負わせたのはじめ、多くの仲間にも重軽傷を与えた）を頂点とする白昼公然の職場乱入・破壊・テロ・リンチの数々の武装襲撃、さらには「当局の白腕・公安機動隊・助役機関士と一緒になってジェットのスト破り」を行い、そればかりか極悪革マル分子「嶋田・斉藤・小川建二」らを使ってコロビ・デッチあげ・タレコミ・告訴を平然と行つて計十六名を警察にタレコミ、六名を逮捕させ、三名を起訴させ、加えてそのことをあげて実に多くの仲間への首切り・処分を当局に要請してやらせる、等々……数えきれないほどの反労働者的な悪業の数々に手を染めてきたのだ。

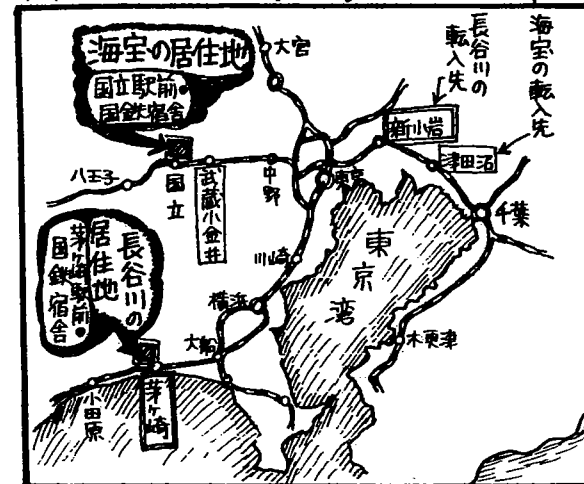
第二、第三の「六・一二」型組織破壊が狙い

その中でもとりわけ、一九八一年六月十二日の革マル分子「嶋田・斉藤」を先兵としての公然たる権力との一体化路線「警察労働運動の典型・完成」というべきデッチあげタレコミ告訴路線としての「六・一二」型組織破壊攻撃は、その卑劣さと反動性において最も許せない歴史的な大罪である。われわれは一時たりともこの事実を忘れたことはない。今も、一三〇〇組合員全員の身体中の怒りが煮えださっているのだ！

この「転勤」送りこみの狙いは何か。

今、われわれをつつむ情勢は、①三里塚二期着工攻撃の本格的開始、②臨調（新マル生・大合理化）国鉄労働運動解体）攻撃の本格化、を迎えて広範な労働者・人民の怒りをこめた大反撃が急速

身ぶり手ぶりの自作自演で「現場検証」をデッチあげる革マル＝嶋田、斉藤と船橋警察署公安刑事。（一九八一年七月八日、津田沼電車区構内）



「これがまたも「転勤」か!」

東京在住のまま、わざわざ「千葉まで遠距離通勤」する「転勤」とは何だ?!

さらに、この「転勤」なるものの悪どさは怒りなくしては論じられない。この「転勤」なるものの実体たるや、完全なベテランなのである。すなわち、この二名の革マル分子は、なんと、名目だけ「千葉局へ転勤」の処置をとり、実際の居住地は以前と同じ東京局内在住のまま、以前よりも十倍以上の通勤時間をかけて、わざわざ東京から千葉まで通勤する」というものである。

④ こういう時期を狙って、動労「本部」革マルが、当局の全面協力・あとおしのもとで、東京地本・松崎の子飼いのれつきの極悪革マル分子を二名も一度に千葉に送りこんでくる、ということが何を目的としているのかは、あまりにも明白である。彼らの目的はただ一つ「第二、第三の「六・一二」」を狙っている以外の何ものでもない。

当局の説明「千葉出身である両名が千葉に帰る」という転勤理由がそもそも最初からウソとごまかしでやられているのである。さらに、転入先である新小岩と津田沼はさしきまつて今、東京からの「長距離通勤」転勤を必要とするような要員状況などでは全く無いのである。断じて許さない！徹底的に断罪せよ！